

西光万吉

1895年〜1970年。
奈良県生まれ。
社会運動家。文筆家。



西光万吉の本名は、清原一隆です。浄土真宗本願寺の末寺、西光寺の住職の長男として生まれました。県立畝傍中学（現・畝傍高校）に入学しますが部落差別を受けて中退、京都の学校に編入しましたが再び差別を受け、卒業することはできませんでした。その後、上京して絵画の指導を受け、才能を発揮します。しかし、のちに画塾からも遠ざかり、同郷の阪本清一郎と共同生活を送りました。

どこへ行っても差別から逃げるのができないと西光自身がわかったとき、逃げるのではなく、差別をなくす取り組みが大事だと気付きます。

1917年、病気のために阪本と奈良に帰郷し、1920年に部落内部の改革運動に取り組むため阪本らと燕会を結成。自らが立ち上がり、仲間と団結する決意を固めました。1921年に佐野学の『特殊部落解放論』を読んだ西光は、上京して佐野と面会し、その年のうちに水平社の創立趣意書『よき日のために』を執筆し、創立準備にかかります。そして、翌年3月3日、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と人間の尊厳と平等をうたい上げ、全国水平社を仲間とともに創立しました。

戦後は原水爆禁止や平和を訴え、また、戯曲や小説も多数執筆。水平社博物館にはこうした彼の足跡が残されています。

水平社博物館

人間の尊厳をもとめ人権活動に生涯を捧げた
青年たちの熱い活動の記録



大正デモクラシーの機運の高まる中、西光らは全国水平社を創立し人間の尊厳をうたい上げ、人権運動に動き出しました。

御所市柏原は水平社発祥の地です。水平社歴史館はその水平社の運動を記念して1998年に設立され、翌年には水平社博物館と名称を改めました。

水平社博物館では、差別を受けてきた人びとの歴史、そして差別からの解放に向け、数々の活動を展開した運動家たちなどを紹介し、柏原の地から始まった人権運動が、やがて大きなうねりとなって

全国水平社運動へ発展していくようすを展示しています。
現在公開されていませんが、左の写真は西光が建具4枚に描いた大作です。



「醍醐の花見」(部分)



■所在地
〒639-2244 御所市柏原 235-2
TEL.0745-62-5588
■交通
JR掖上駅から徒歩1km
駐車場有(5台・無料)

北畠親房

1293年～1354年。
鎌倉末・南北朝時代の公卿。
南北朝の実質的指導者。「神皇正統記」を執筆。



鎌倉末期から南北朝時代の複雑な時代に、北畠親房は後醍醐天皇と後村上天皇に仕えました。北畠氏は鎌倉後期には大覚寺統に仕えており、親房は後醍醐天皇に拔擢されて大納言に昇進。後醍醐天皇の側近である「後の三房」の一人として仕えます。皇子

の世良親王の養育にもあたりましたが、その死を機に出家し、政界を引退。建武新政設立後は、長男顕家と共に一時陸奥国に下ります。1336年、足利尊氏の軍を追う顕家とともに上洛し、親房はそのまま京都で政治に携わることになりました。そして再び吉野へ戻り、後醍醐天皇を迎えて南朝を開きます。

北朝との対立で劣勢となる中、吉野と奥州を行き来していました。後醍醐天皇没後、後村上天皇が皇位を継いだときには奥州から動けず、その小田城で『神皇正統記』を書きました。親房はこの本で、建国の由来から後村上天皇までの史実を示しています。『神皇正統記』は南朝の正統性を主張しながらも、公家の政治的主張を述べた彼の強い意思が感じられる著書で、後世にも大きな影響を与えました。

晩年は吉野で南朝を指導する中心的存在となりました。南北朝の争いの中、皇居が移された五條市の賀名生で亡くなったと伝わっています。

賀名生皇居跡

美しい山里のなかで語り続けられる、室町時代南朝の悲しい歴史。



五條市の南、山々に囲まれた賀名生の里は奈良県の三天梅林の一つに数えられ、早春、梅の香りが山里を渡ります。

かつて南北朝の戦乱の頃、この地にも京を追われた南朝方が逃れてきたことがありました。南朝の後醍醐天皇は吉野に向かう途中、ここ西吉野の郷土、堀孫太郎信増宅を訪れました。信増をはじめ村の人びとは、逃避行を続ける都びとらを温かくもてなしたといえます。これが縁となり、その後も後村上・長慶・後亀山天皇が堀家を行宮として立ち寄られました。藁葺屋根の住宅は重要文化財に指定され、冠木門に掛かる「皇居」の扁額は、天誅組の吉村貞太郎が書いたものです。

堀家を見下ろす丘の上には北畠親房の墓所があり、南朝の悲しい歴史を伝えているようです。



■所在地
〒637-0116 五條市西吉野町和田48
TEL.0747-33-0301
(五條市西吉野支所地域振興課)
■交通
JR五條駅から新宮・十津川温泉行きバスで賀名生和田北口下車、徒歩400m
駐車場有(10台、無料)

藤岡玉骨

1888年～1966年。
宇智郡北宇智村近内（現・五條市近内町）生まれ。俳人。



金剛山の麓、五條市近内町にある登録有形文化財の「藤岡家住宅」は、俳人藤岡玉骨の生家です。藤岡家は代々庄屋を務めた旧家。1888年、その長男として生まれた玉骨（本名長和）は当主として大切に育てられました。

尋常小学校のときから学業優秀で、県立五條中学校（現・五條高等学校）を卒業するまで常にトップの成績。その頃から正岡子規や与謝野鉄幹・晶子夫妻の「明星」に影響を受けて、俳句と短歌を作り始めます。第三高等学校（現・京都大学）に進んでからは、ますます才能を開花させるようになっていました。三高卒業の後は東京帝国大学法学部に進学、卒業直前にうた代と結婚して卒業後はエリート地方官の道を進みます。京都、佐賀、和歌山、熊本と、各地で県知事などを歴任しました。

1939年に退官。後、高濱虚子主宰「ホトトギス」同人となり、古希を迎えて『玉骨句集』を出版します。「古希翁といへど大和の大桜」と高濱虚子から評された玉骨。虚子が評した「大和の大桜」に、同じ奈良出身の阿波野青畝も共感していたようです。

山めぐり単を守るきぎす翔たせつつ

この玉骨の代表的句は、五條市の築山寺に自筆の句碑があります。また、与謝野夫妻をはじめ石川啄木や森鷗外など、当時の文化人たちとも交流を示す資料も「藤岡家住宅」に保存されています。

藤岡家住宅

大和が誇る俳人・藤岡玉骨の生家に出会う昔懐かしい生活用品や玩具の数々。



藤岡玉骨の生家は長年空き屋になっていましたが、現在NPO法人「うちのの館」によって管理され、「登録有形文化財藤岡家住宅」として、文化を発信する基地となりました。

藤岡家は江戸から明治時代の庄屋の家柄で、両替商、薬種商なども営んでいました。建物は10棟が登録有形文化財になっており、店の間、内蔵、書斎、大広間、貴賓の間、茶室を見学することができます。内蔵は展示室で、豊富な文学資料の他、昔の生活道具や玩具でいっぱい。貴賓の間や、茶室、大広間などはギャラリーや会議などにも利用でき、レトロな雰囲気の中、日本の古き良き時代を感じることがができる空間になっています。庭には樹齢250年の古梅、長兵衛梅が残り、五條の地に春を告げています。



■所在地
〒637-0016 五條市近内町526
TEL.0747-22-4013
■交通
JR北宇智駅から徒歩約1.3km
駐車場有(2カ所 50台・無料)

役行者

600年代後半。

葛上郡茅原村（現・御所市茅原）生まれ。

本名は役小角。修験道の開祖。山岳修行者。



葛城山で山岳修行を重ねた役行者は、不思議な力を駆使して自在に鬼神を操り、野山や空を駆けめぐっていました。修験道の開祖には、このような実に多くの奇跡が伝えられています。本名は役小角、現在の御所市で生まれました。

699年に伊豆への流刑の記録が『統日本紀』に残っていることから、実在した人物であることは確かかなようです。

御所市の吉祥草寺は役行者生誕地で、役行者によって創建されたと伝えられています。境内には誕生の時に用いた「産湯の井戸」があり、行者堂には自作とされる32歳像や母親像が安置されています。

役行者は日本古来の山岳信仰に、神道や仏教、道教を採り入れて独自の修験道を成立させました。「修行は難苦をもって第一とす。身の苦によって心乱れざれば証果自ずから至る」という言葉を残しています。実践性を重んじる修験道は、命がけの修行を通して霊力や権力を開発する厳しい道なのです。

およそ1300年前、役行者が一千日の修行に入って感得した蔵王権現は、大峯山山上ヶ岳の大峯山寺と吉野山の金峯山寺に祀られています。吉野山から山上ヶ岳の一带は、標高千数百m級の険しい山々が続く古来の修験道の聖域で、さらに吉野から熊野を結ぶ大峯奥駈道は、難所続きの修行の道として知られています。

金峯山寺

日本一の桜の名所・吉野山中に、いまも連綿と息づく日本独自の山岳修験道場。



近鉄吉野駅から下の千本を通り、参道を登って行けば、金峯山寺蔵王堂の大きな姿が目飛び込んできます。その大きさは吉野山の麓の大和上市からも見える程です。

ここは、役行者（役小角）が拓いた修験道の聖地で、行者は修行で金剛蔵王権現を感得し、本尊を山桜の木から彫り造ったことから、山桜がご神木となっています。そのため多くの信者が吉野山に桜の苗木を寄贈し、保護され吉野山の桜として日本中に知られています。

近代までは、この吉野山金峯山寺から山上ヶ岳大峯山寺付近の山々を総称して大峯山と呼び、女人禁制の特別な土地として尊重していました。山上ヶ岳は現在も女人禁制を守る日本で唯一の山です。



■所在地
〒639-3115
吉野郡吉野町吉野山2498
TEL.0746-32-8371

■交通
近鉄吉野駅から徒歩3分で千本口駅へ、ロープウェイで約3分、吉野山駅下車、徒歩約10分
駐車場有(80台・桜期は有料)

松尾芭蕉



天理大学附属天理図書館蔵

1644年〜1694年。伊賀上野赤坂農人町（現三重県伊賀市上野赤坂町）生まれ。江戸前期の俳人。「奥の細道」の作者。

俳諧文学の頂点と呼ばれる松尾芭蕉。

伊賀市上野に生まれ、19歳の時に兄とともに俳諧を学びました。24歳で宗房と号して初めての俳句を世に出し、その後、俳号を芭蕉と改め、多くの弟子を育て俳聖と呼ばれました。芭蕉といえは、漂泊の

詩人として旅と俳句に生涯の多くを費やしたことで知られています。『野ざらし紀行』は、42歳のとき、まさに野ざらしになる覚悟をした悲壮な決意の旅でした。伊賀から奈良、京都、大津、名古屋、木曾路を経て江戸へ帰る旅程をとり、数年前に亡くなった、母親の墓参りでもありました。2度目の大きな旅は、吉野山、高野山、和歌浦を経て須磨、明石を巡る「笈の小文」の旅です。『野ざらし紀行』とは違い、心にゆとりがある旅だったようです。その際に立ち寄った吉野郡大淀町にある世尊寺の境内には、芭蕉の句碑があります。芭蕉は生涯を通して、8回ほど奈良を訪れていますが、東大寺のお水取りや吉野の瀧などを詠んだ句を残しています。

菊の香や奈良には古き仏堂

これは芭蕉晩年、最後の奈良への旅となった51歳の時の句です。

代表的作品『奥の細道』では、1689年に江戸を出発。弟子の河合曾良を伴い、150日間かけて東北・北陸を巡って江戸に帰る全行程2400kmの旅でした。そして、大阪の旅館で人生の旅路を終えたのは、芭蕉らしい最期といえるでしょう。

世尊寺



聖徳太子の父用明天皇の勅願により建立され、時代と共に生き続ける寺。

聖徳太子にゆかりのある寺は数多く、この世尊寺もその一つです。創建は飛鳥時代と言われています。吉野地方では大変栄えた寺でした。平安時代には天皇家や藤原道長なども参拝したという記録が残っています。

寺は時代の移り変わりとともに、吉野寺、比叡寺と名称を変えてきました。東塔は豊臣秀吉によって移築され、現在は滋賀県三井寺に残っています。西塔も南北朝戦乱時に焼失しました。現在の伽藍は再建されたものです。

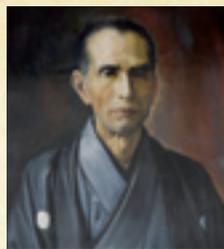
世にさかる花にも念佛まうしけり
1688年4月、松尾芭蕉はこの寺を参詣に訪れています。太子お手植えの伝承のある桜の横には芭蕉の句碑が建てられています。歴史の荒波を耐えぬいた山里の寺は花に囲まれ、静かなたたずまいを見せています。



■所在地
〒639-3128 吉野郡大淀町比曾762
TEL.0746-32-5976
■交通
近鉄六田駅・大和上市駅からタクシーで約5分、ふれあいバスで約10分。
駐車場有(10台・無料)

土倉庄三郎

1840年～1917年。
吉野郡大滝村（現・吉野郡川上村）生まれ。
吉野林業の父。



奈良県の面積の約70%は、山林に覆われています。特に、吉野地方は昔から林業が盛んで、良質の吉野杉が特産品です。1840年に吉野郡川上村で生まれた土倉庄三郎は、林業に大きな功績を残したことから「吉野林業の父」と呼ばれています。

山林の経営者だった父の影響で、16歳で家を継いだ土倉は吉野材木方の代表として地域のために林業発展に力を注ぎました。最初に手掛けたのは、効率的な木材輸送です。筏流しいかだの水路整備のために、吉野川を改修し、道路の整備に莫大な私財を投入して道路を建設しました。さらに造林法を研究して優れた木材を多く生産できる工夫を考え出しました。「密植・多間伐・少主伐」が特徴の土倉式造林法を紹介した著書『吉野林業全書』は、今日でも絶賛される全国林業家のバイブルです。

土倉は地元だけでなく全国でも講演指導を行い、林業発展に尽くし、静岡県天竜川流域、群馬県伊香保いかになどで成果を上げました。晩年は川上村村長となり、村有林も育成しています。また、地場産業発展に貢献する一方で、広い視野で社会を見ていた彼は、政治家や社会運動家とも交流がありました。自由民権運動を進める板垣退助の西欧視察への旅費援助は有名です。

彼の造林法により、乱伐で低下していた国内森林率は現在回復し、森林を守る活動は、今も続けられています。

山幸彦のもくもく館

吉野杉を知り、吉野杉に親しみながら林業の歴史と文化を学ぶ林業資料館。



かつて、吉野地方は林業が盛んな土地でした。川上村の山幸彦のもくもく館は、吉野林業の父といわれる土倉庄三郎の、林業にかける熱意を今に伝えています。ここは川上村の林業資料館であり、吉野杉を用いた木のぬくもりを感じることができる館内では、川上村の林業の様子や歴史の展示を見ることもできます。また月に1回開催される「山の学校達っちゃんクラブ」は人気のイベントになっています。

川上村大滝の鍛掛岩には「土倉翁造林頌徳記念」という大きな文字が刻印されていますが、これは後世に彼の功績を伝え、讃えようとする川上村の人々の気持ちを表しているのです。その近くにある土倉庄三郎の銅像は、今も川上村の山々を見つめています。



■所在地
〒639-3542 吉野郡川上村西河2486
TEL.0746-53-2929

■交通
近鉄大和上市駅から湯盛温泉杉の湯行きバスで約20分、西河下車、徒歩400m
駐車場有(10台・無料)